エッセイ

世界へ 世界から

スリップウェアと大阪日本民芸館の不思議な縁

柴田 雅章

近世ヨーロッパで広く作られたスリップウェアは、スリップとよばれる化粧土を用いて装飾された焼物（器）です。一九〇九年にイギリスで刊行のスリップウェアを紹介した本を見た柳宗悦や富本憲吉、バーナード・リーチらが新鮮な美に魅了され、富本やリーチは楽焼による試作をしています。もっとも、その本が紹介したのは、おもに一七世紀に作られ、手の込んだ装飾目的のスリップウェアでした。

その後、リーチの帰英に同行した濱田庄司は、リーチとともにイギリス西南端のセントアイブスで西洋初の登り窯を築き、作陶を始めます。彼は三年間の滞英中に、民衆が日常用いた、素朴で渋い美しさを湛えたタイプのスリップウェアに出合い、数点を日本にもち帰りました。京都で一緒にそれを見た河井寛次郎、柳、濱田はともに喜び、互いの友情は確かなものになりました。一九二四年のことです。既に、日本の民衆の実用向けに作られ、自身が美しいと感じた品々を数多く収集していた柳は、スリップウェアにも同様の美を感じたのです。

三人に富本が加わって、一九二五年に「民衆的工藝」を短くした「民藝」ということばを作り、翌年四月には「日本民藝美術館設立趣意書」を発表します。奇を衒うことのない「健康な美」、「正常な美」を民藝の美と考えるものです。柳は一九三六年、東京駒場に日本民藝館を開設します。

戦後も地道な活動が続けられ、一九七〇年の大阪万博では、関西財界有志の協賛をえて、日本民藝館が「民芸の美」を紹介するためのパビリオンを作りました。それが大阪日本民芸館です。万博終了後は、柳の提唱した民芸運動の西の拠点となるべく、日本民藝館の分館という位置づけの財団法人として装いもあらたに開館し、陶磁器・染織品・木漆工品・編組品など国内外の新古民芸品を公開してきました。柳とともに民芸運動を牽引し一九五五年に人間国宝の認定を受けた濱田が初代館長を務め、濱田没後は、プロダクトデザイナーの柳宗理が館長を務めています。

今年は濱田庄司没後三〇年、それを記念する特別展が一二月二一日まで大阪日本民芸館で開催中です。日本民藝館蔵の濱田作品約二〇〇点、棟方志功作品約二〇点のほか、イギリスのスリップウェアも展示されており、日本の民芸運動の歩みをたどることができるでしょう。大阪日本民芸館は、民博の向かいという縁を生かして、共同の企画を進めたいと考えており、来年春には「茶」を統一テーマとする展示をおこなう予定です。

しばた まさあき／作陶家。1948年東京都小金井生まれ。中央大学理工学部卒業。丹波で生田和孝氏に師事。丹波篠山にて独立。以後食器を主体に製作し、若くして出合ったスリップウェアを丹波の土と灰釉を用い独自の手法で製作している。現在、国画会会員、大阪日本民芸館理事・展示主任。日本民藝館新作展審査員。

月刊みんぱく

目次

NOVEMBER 2008 月刊みんぱく 11

01 エッセイ 世界へ世界から
スリップウェアと大阪日本民芸館の不思議な縁
柴田 雅章

02 特集 今日のレヴィ=ストロース
こぼれ話、レヴィ=ストロース先生
川田 順造
『神話論理』の「反言語論的転回」
渡辺 公三
熱いは冷たい、冷たいは熱い
出口 顯
ブリコラージュとアート論
竹沢 尚一郎

民博にきたレヴィ=ストロース
中牧 弘允
野に咲く「野生の思考」
竹内 信夫

08 モノ・グラフ
アジアの人びとが見たヨーロッパ
—特別展「アジアとヨーロッパの肖像」から
吉田 憲司

10 地球ミュージアム紀行
文化の接触と交流の殿堂
吉田 憲司

11 表紙モノ語り
銅板紋章（チムシヤン）
佐々木 史郎

12 みんぱくインフォメーション

14 万国津々浦々
子連れフィールド・ワーカー奮闘記 メキシコ編
あかね色の空の下で
武田 和代

15 時論・新論・理想論
カレーといえばナーン
杉本 良男

16 外国人として生きる
ペルー出身のプロボクサー
吉富 志津代

18 歳時世相篇
⑧日本点字制定記念日
万人のための"点字力"
広瀬 浩二郎

20 生きもの博物誌
博物館のいたずら虫たち⑤
日高 真吾

22 フィールドで考える
接触による治療
飯田 淳子

24 みんぱく ウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記

※表紙解説は11ページ